
JOC

ナショナルコーチアカデミー



1. 競技者育成プログラムの構築
2. 国際競技力を高めるための専用施設 ナショナルトレーニングセンターの設置
3. 指導者の質の向上

スポーツ指導者は「基本技術」を教える「教師」である。指導者は常に「基本技術」を学び、徹底して競技者に教え込まなければならない。

そのために、指導者には、

- ①知識を豊かにし、常に学び、質の高い経験を重ね、競技者との信頼関係を深めていくことが重要である。
- ②情熱・愛情・誠意・経験だけでは限界がある。競技者が指導者に求めているものは、「本道のスポーツ」を教わることであり、「必ず君を立派な競技者に育ててみせる」という情熱と理論に基づいた信念で、競技者を育成することである。



指導者のレベルアップなくして、
Team、個人のレベルアップはない



1. ナショナルコーチアカデミー 目的・位置付け・経緯



世界で戦える人材の育成

- ・強化コーチ・スタッフの質的向上及び再教育
- ・新たな人材の発掘・育成
 - 日本スポーツ界のシンクタンクとしての機能へ
(人材・知識など)



ナショナルコーチアカデミーの位置付け

■ スポーツ基本計画(←スポーツ振興基本計画)

- － 「4. 国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備」
- － 「(2)スポーツ指導者及び審判員等の養成・研修やキャリア循環の形成」

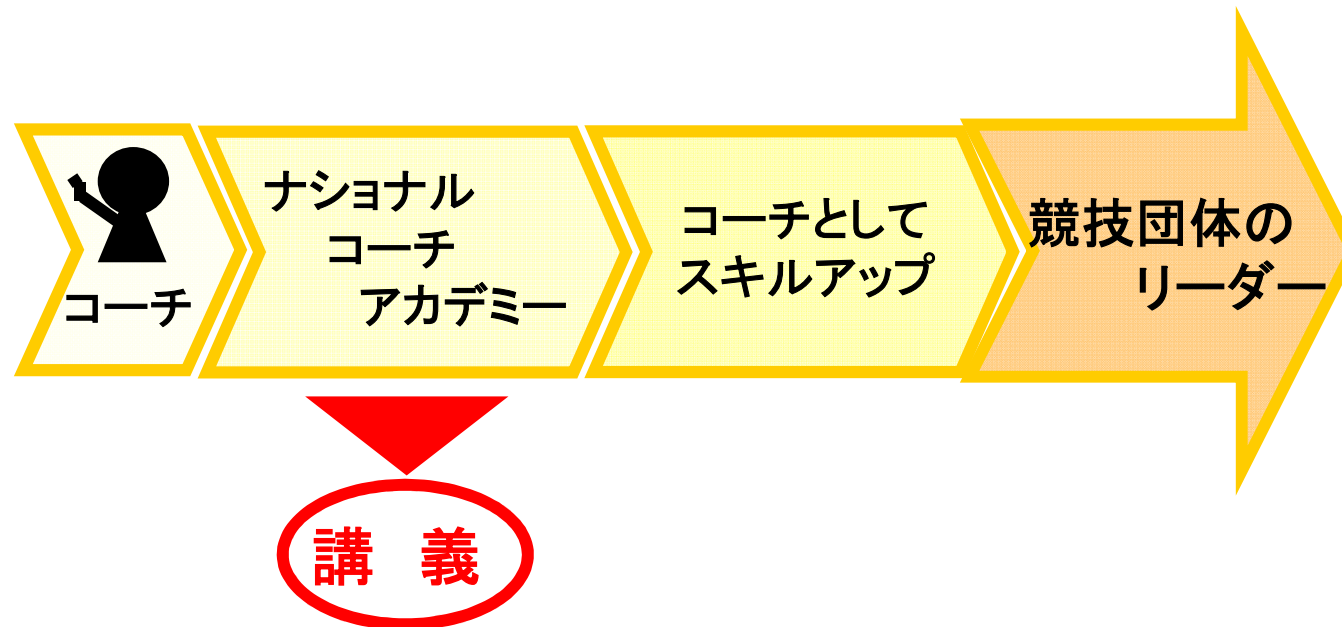
■ JOCゴールドプラン

- － 「必要不可欠な施策」

※JOC専任コーチングディレクターの認定を受けるための前提条件として導入、実施



我が国を代表する エリートコーチ・スタッフへ



情報提供 → 考える場

プログラム作成までの経緯

■ 諸外国ナショナルコーチ育成・研修制度の調査

- ・カナダコーチ協会
- ・ドイツ、トレーナーアカデミー
- ・フランス国立スポーツ研究所 (INSEP)
- ・国立サッカー研修所 (フランス)
- ・UKスポーツ・エリートコーチ育成制度 (イギリス)
- ・カタルーニャスポーツカウンスル (スペイン) など

■ 実施に向けてのトライアル

- ・2003年 第1回トライアル研修会
- ・2004年 第2回トライアル研修会
- ・2006年 第3回トライアル研修会

■ 2008年2月 スタート

「特別移行措置コース」を3回実施 90名が修了。

■ 2008年10月 「正規コース」スタート

2013年コース 6月3日開講 ※正規コースは129名修了 (2013.3.31現在)



2. ナショナルコーチアカデミー コンセプト



コンセプト

■ エリート elite

- 日本を代表するコーチ、選ばれたコーチ

■ プロフェッショナル professional

- 指導者という専門家としての技術・知識を身に付けたコーチ

■ インターナショナル international

- 日本人としての戦い方を追求し、国際ステージで活躍することが出来るコーチ

■ インタラクティブ interactive

- 双方向による情報・意見・経験の交換：
受講者同士 ⇒ 選手・コーチ

■ チームジャパン team JAPAN

- 競技種目の枠を超えた交流・連携、切磋琢磨



知識だけではない。



実践的学問

ケーススタディ

メダルまでのプロセス、失敗例、総合的戦略 etc.

OPEN MIND!



3. ナショナルコーチアカデミー カリキュラム



カリキュラム

■ コーチング

■ マネジメント

- ・マネジメント概論・マネジメント事例
- ・医・科学サポート活用(理論・事例・今後の活用)
- ・スポーツ情報戦略

■ コミュニケーション



カリキュラム～「コミュニケーション」

1. 問題解決能力

問題発見 → 分析 → 問題解決

問題 → 資料・データの収集、分析 → 論理構築

2. プレゼンテーション能力

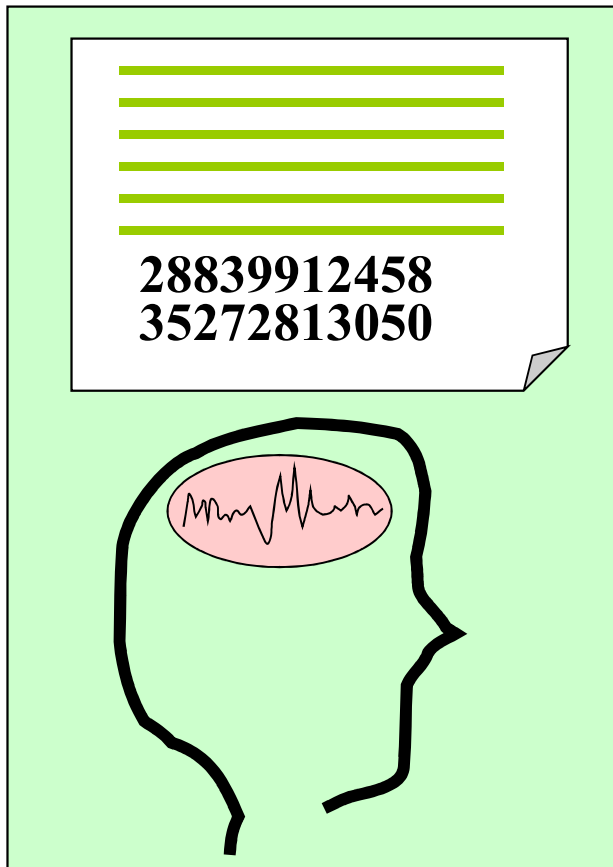
ストーリー構築

提示の仕方 = 伝え方

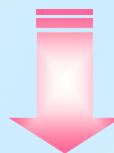
- ・話し方
- ・見せ方



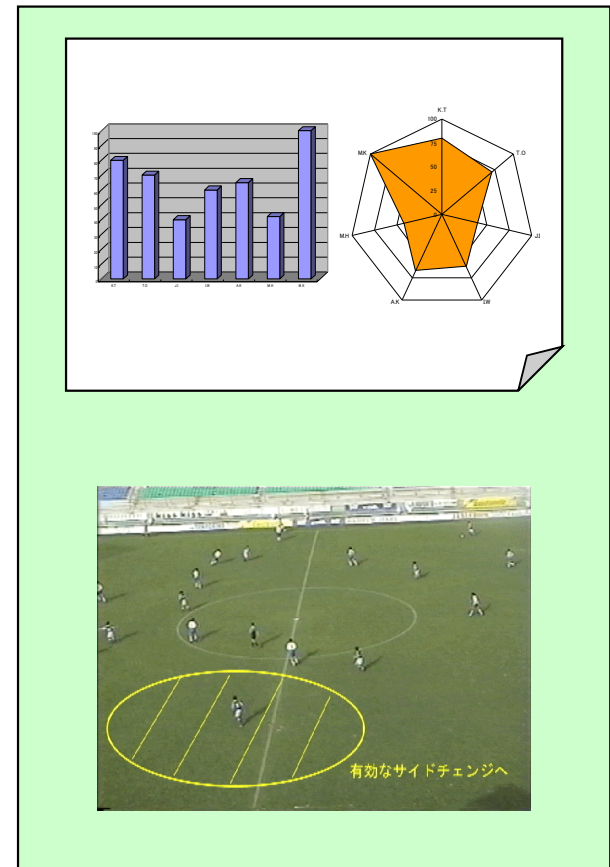
伝えたい情報 “なんとかして伝えたい！” 伝わる情報



伝達効率
説得効果



ビジュアル化



伝えるための努力



コミュニケーション

言語技術

- ・目的: 分析的、批判的な情報の取り出し方法、論理的で分かりやすい情報伝達の手段を身につける。選手に考えさせるためには？

ディベート

- ・目的: 指導者としてプレイヤーをはじめ、NF、IF等に対するコミュニケーション能力、論理能力のトレーニング

コミュニケーション

プレゼンテーション実習

テーマ:「自身のコーチング論」「強化プランニング」
「大会における過去の成功例・失敗例」「今後自分が
行いたいプロジェクト」等、自分の活動に係わること

4. 今年度の取り組み



今年度の取り組み

開講式 (JOC強化担当理事・福井烈氏)

- ・暴力行為に関するJOC調査結果
- ・ナショナルコーチアカデミーで学ぶことの意義

「スポーツ界から暴力行為を撲滅する」(仮)

(JOC強化担当理事・田嶋幸三氏)

- ・柔道第三者委員会での検証結果を踏まえた、暴力行為が発生するメカニズムや問題点について(科学的知見に基づく暴力行為の否定等)
- ・指導者として何をすべきか



今年度の取り組み

スポーツと法 (JOC顧問弁護士・辻居幸一氏)

- ・「女子柔道の事例」「選手選考」
⇒ 受講者間のディスカッション

その他

- ・通常カリキュラム:「コーチング」「マネジメント」「コミュニケーション」
- ・「指導者の義務と責任」(松永怜一・元JOC選手強化本部長)

受講者の指導者自身が自分のこととして考える



学ぶことをやめたら、
教えることをやめなければならない。

(サッカーフランス元代表監督 ロジェ・ルメール氏)

